

各部名称

SmartCS
NS-2250 ACモデル



SmartCS
NS-2250 DCモデル



全モデル共通背面
(48portモデル)



※NS-2250-16/32はシリアルポートの数がそれぞれ16/32となります。

- ① 電源スイッチ
- ② ACインレット
- ③ DCインレット
- ④ STATUSランプ
- ⑤ USBポート
- ⑥ RESETスイッチ
- ⑦ POWERランプ
- ⑧ LANポート
- ⑨ CONSOLEポート
- ⑩ シリアルポート

製品モデル

型式	構成	備考
NS-2250-16	シリアルポート 16ポート	
NS-2250-32	シリアルポート 32ポート	AC二重化電源モデル
NS-2250-48	シリアルポート 48ポート	
NS-2250-16D	シリアルポート 16ポート	
NS-2250-32D	シリアルポート 32ポート	DC電源モデル
NS-2250-48D	シリアルポート 48ポート	

付属品

共通	USBメモリー (設定保存用) NS-354 DB9-RJ45変換アダプター (本装置コンソール用) イーサネットケーブル ラックマウントキット
AC二重化電源モデル	AC100V電源ケーブル×2 抜け防止クランプ×2
DC電源モデル	DC電源ケーブル用コネクタ コネクタ器具

オプション

型式	仕様	
NS-354	DB9-RJ45変換コネクタ	4個入り
NS-490	DB9-RJ45変換コネクタ (クロス)	4個入り
NS-993	バックアップ用USBメモリー	

共通仕様

LANポート	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 2ポート Auto Negotiation・Auto-MDI/MDI-X ボンディング機能 (アクティブ・スタンバイ方式) IPv4/IPv6
外部拡張スロット	USBポート
装置LED	電源LED、装置ステータスLED (4灯)、ポートLED
シリアルポート	RS232準拠 (RJ45コネクタ) 設定可能速度: 2400, 4800, 9600, 19200, 38400, 57600, 115200 (bps) パリティ指定 (even/odd/none)、ストップビット長 (1bit/2bit)、データ長 (7bit/8bit)、フロー制御 (ハードウェア/ソフトウェア/なし) ブレイク信号不正送出制御機能、DSR信号監視機能
外形寸法	426 (W) × 262 (D) × 44 (H) mm
重量	約3.4kg
電源	AC二重化電源モデル AC100V~240V DC電源モデル DC-48V
最大消費電力	AC二重化電源モデル 17W DC電源モデル 15W
動作環境	温度5~40℃、湿度15~85% (結露なきこと)

直感的に使用できるアクセス管理ソフトウェア

Smart Jumper ネットワーク機器やサーバー類へのアクセスを一元化して、ネットワーク運用者の負担を軽減するソフトウェアです。
<https://www.seiko-sol.co.jp/products/smartjumper/>

安全に関するご注意 正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず取扱説明書をよくお読みください。

- SmartCS, SmartGSはセイコーソリューションズ株式会社の登録商標です。
- その他、記載されている社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- 当製品の使用によって発生した損害およびその回復に要した費用に対し、当社は一切の責任を負いません。
- このカタログの内容は予告なく変更されることがあります。

セイコーソリューションズ株式会社

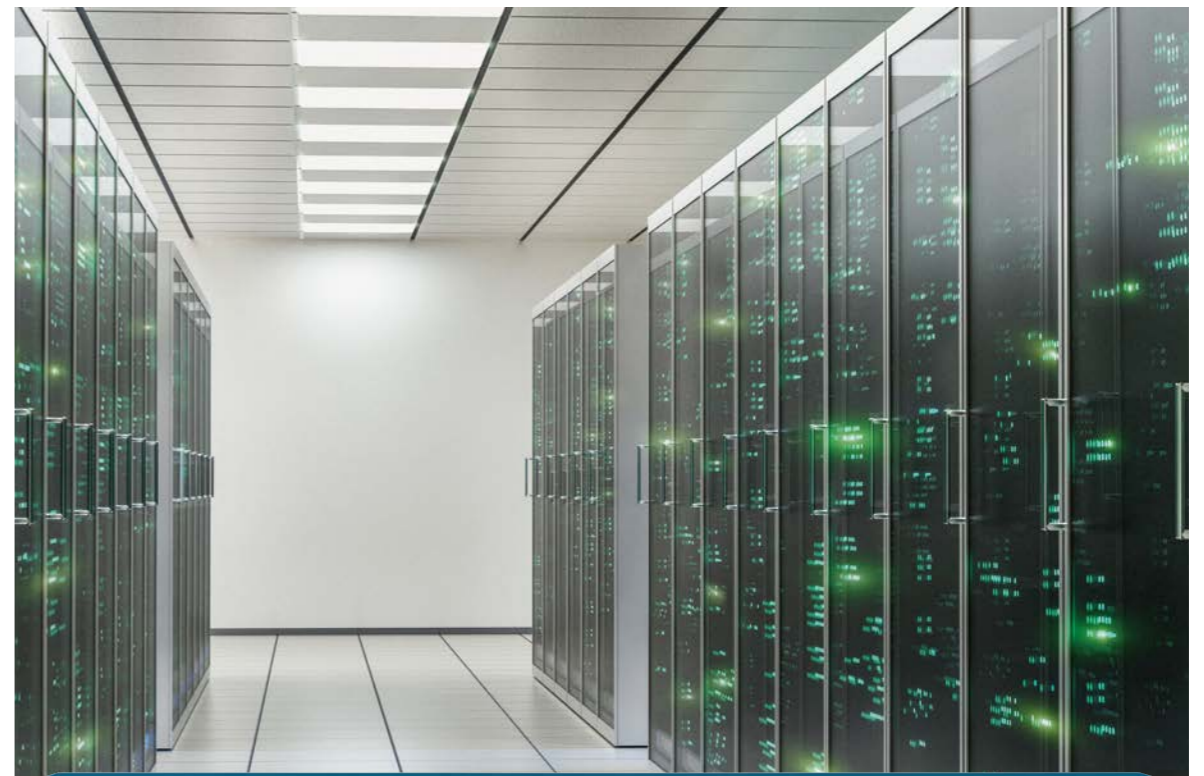
本社 〒261-8507 千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 TEL043(273)3184
大阪営業所 〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町4-2-15 TEL06(6245)2247

最新情報をいち早くお知らせ。●インターネットホームページ <https://www.seiko-sol.co.jp/>

ネットワーク機器をセキュアに統合管理

コンソールサーバー[NS-2250シリーズ]

SmartCS



- サーバーやネットワーク機器のコンソールポートを最大48ポート収容
- 障害解析のための詳細ログを取得・出力
- アクセス制限や暗号化など充実したセキュリティー
- AC電源・LANポートの二重化

シリアルコンソール、それは最後のライフライン。



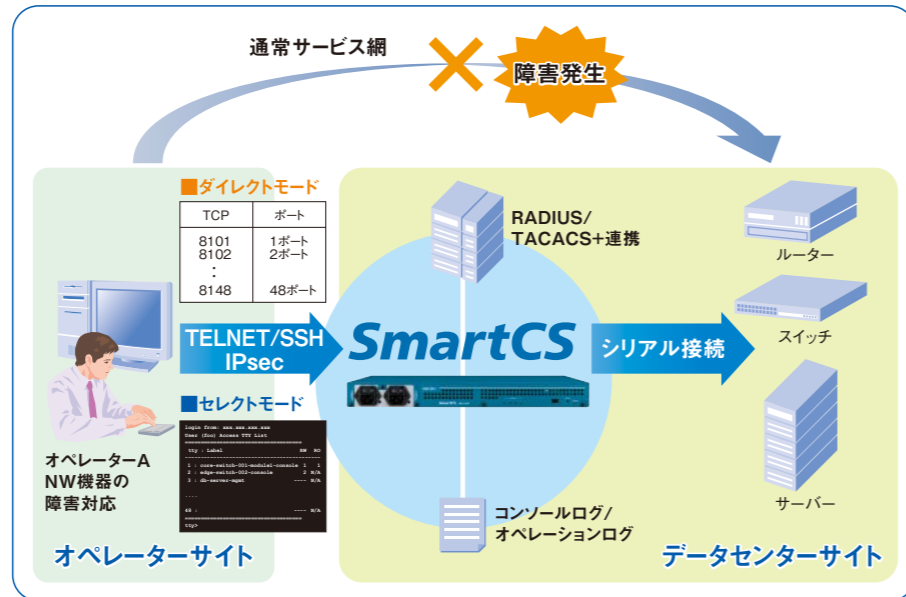
コンソールサーバー「SmartCS」はライフラインをしっかりと支えます。

24時間、365日フル稼働するネットワーク。これらを安定的に運用するためには、強固なセキュリティの下、ルーターやスイッチなど各種ネットワーク機器の稼働状況を正確に把握・管理することが不可欠であり、その重要度はますます高まっています。コンソールサーバー「SmartCS」はシリアルコンソールの収容という、ライフライン構築の専用機器として、リリース以降さまざまなお客様にご採用いただき、ネットワーク運用の安定化・効率化を実現しています。

機能 1 コンソール統合 最後のライフライン「コンソールアクセス」を確保

各種ネットワーク機器が有する管理用シリアルポート（コンソールポート）はいかなる時でも確実にアクセスできる「最後のライフライン」であり、装置故障などのメッセージも出力される非常に重要なポートです。このコンソールポートを統合収容し、集中管理を可能にするのがコンソールサーバーです。サービス用のネットワークとは別の管理用ネットワークを確保することで、収容機器の障害発生時にもSmartCSを経由して対象機器の管理コンソールへアクセスすることが可能になります。管理端末からSmartCSへのアクセスはTelnet（非暗号化通信）に加えてSSH（暗号化通信）にも対応しており、LAN/WANを介したコンソールポートアクセスをセキュアに実現することができます。

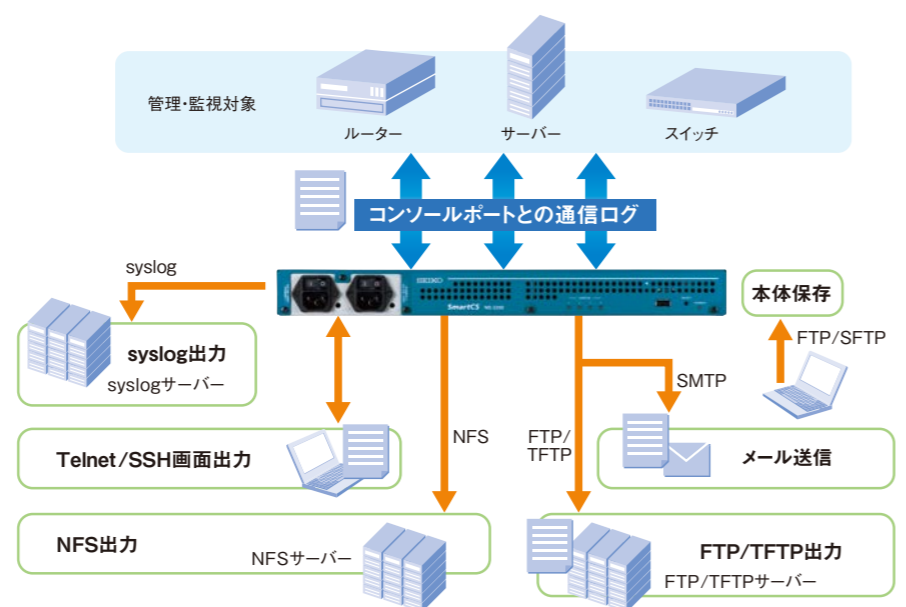
対象機器のアクセス方法には、各シリアルポートに割り当てたTCPポートに対して、直接接続を行う「ダイレクトモード」と、いったんSmartCS自身に接続し、その後メニュー形式で機器の選択と接続を行う「セレクトモード」の2種類を実装しており、ネットワークのポリシーや運用方法に応じて選択することができます。



機能 2 ロギング機能 各種解析に不可欠な接続機器のコンソールログを確実に保存・転送

SmartCSには、コンソールポートへのアクセスを確保するだけでなく、コンソールポートとの通信のログを取得するという大きな特長があります。コンソールポートからは通常稼働時だけでなく装置の起動・停止の過程や障害発生時などにおいても各種の重要なメッセージが出力されます。これらのメッセージをSmartCS内部に自動的に保存し、FTP、TFTP、NFS、syslog、およびメールでの転送など、さまざまな方法でログデータを送信することができます。

この機能を活用した一例として、SmartCSに収容した管理・監視対象機器と管理端末との各種通信内容（オペレーションログ）の取得・自動転送があげられます。セキュリティの観点からオペレーションログの取得が必要とされている環境において、SmartCSと各種ネットワークサーバーを組み合わせることによりオペレーションログの自動取得システムを容易に構築することができます。



※同一ポートのメール送信とFTP出力の同時利用は不可

機能 3 セキュリティ強化 暗号化・アクセス制限により不正アクセスを防止

SmartCSではアクセス制御と通信の暗号化によりセキュアなコンソールアクセスを実現しています。シリアルポート毎にアクセス方式を設定したり、シリアルポートへのアクセス権を持つユーザーやそのユーザーが所属するグループに対して接続を許可するシリアルポートを登録できますので、権限を持たない機器へのアクセスを確実に防ぐことができます。

さらにRADIUS/TACACS+サーバーを活用することで、複数のコンソールサーバーを運用するような大規模ネットワークにおいても共通のアクセスポリシーを適用することができます。通信においてもSSHv2およびSFTPによる暗号プロトコルと公開鍵認証をサポートしていますので安全です。

また、IPsec機能（トンネルモード）をサポートしていますので、IPsecルーターとの間でVPNを構築することが可能になります。

ファイアウォール機能も搭載しており、さまざまなセキュリティ対策を行えます。

アクセス権制御

RADIUS/TACACS+ Server

Port	Conn.	Mode
1	Both	RW
2	Telnet	RO
3	SSH	Both

Group	Port
Group1	1-16
Group2	12-48

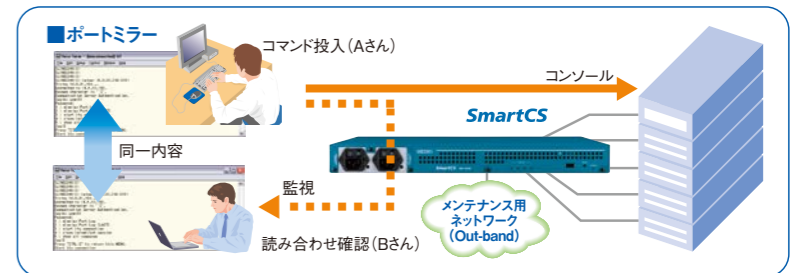
User	Port
suzuki	1,2,3
tanaka	1,5,6

ポートごとに
●接続方式
●アクセス方式（入力可や出力のみなど）を設定可能です。

シリアルポートへのアクセス権が設定可能。またシリアルポートのユーザーは本体ログイン不可とすることで本体のセキュリティを保ちます。

機能 4 運用支援 ポートミラー

管理端末と対象機器の通信内容をモニターするポートミラー機能を装備しています。実際にオペレーションが行われている状態を別の端末からモニターすることで、コマンド投入時の読み合わせ確認などを別々の拠点間で行うことが可能になります。



機能 5 運用自動化対応

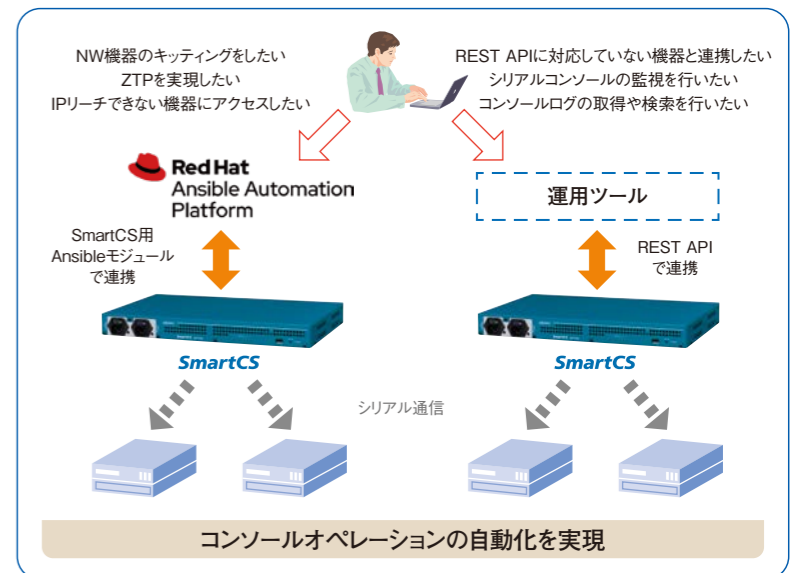
SmartCSのシリアル通信を運用自動化ツールやAPI経由で行えるようになることで、管理・監視対象装置がIP未設定の場合や高度ネットワーク運用に対応していないレガシー機器でも連携が可能です。

Ansible対応

SmartCS用Ansibleモジュールを公開しています。シリアル通信の独自モジュールを使うことで、大量のネットワーク装置のキッティングや、コンソールオペレーションの自動化を実現できます。また、ネットワーク機器ベンダーが提供しているモジュールをSmartCS経由で実行することも可能です。

REST API対応

SmartCSに接続された機器のコンソールログの取得や検索、シリアル通信の設定変更や情報取得をREST API経由で行うことが可能です。また、Ansible同様、コンソールオペレーションの自動化も実現できます。運用ツールとの連携により、従来は実現が難しかったシリアル通信の監視や操作が可能になります。



その他の機能

- 長時間、安定稼働する信頼性
- 設定保存機能
- DSR信号監視
- ブレーク信号不正送出抑制機能

AC電源・LANポートの二重化

